



2022年 4月25日
第187号

JR 東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



福知山線脱線事故から18年

事故の背景には日勤教育があった。いまのJR東日本はどうか？

2005年4月25日午前9時18分、兵庫県尼崎市でJR福知山線の列車がカーブを曲がり切れずに脱線、線路脇のマンションに衝突し、乗客106名と運転士が死亡、562名が重軽傷を負いました。

鉄道事故調査報告書では、運転士がペナルティと受け取られるような日勤教育を受けさせられることを懸念し、運転から注意が逸れたことでブレーキ使用が遅れ事故につながったと書かれています。



現在、事故現場のマンションは「祈りの杜 福知山線脱線事故現場」という施設が建っており、事故が発生した当時の様子や原因など事故の詳細な内容が展示されています。

一方で、福知山線脱線事故によって懲罰的日勤教育が問題視された過去がある中、JR東日本では未だに懲罰的日勤教育が行われ、社員が心身ともに追いやられる事象が発生していることがわかりました。日勤教育を受けた運転士がハラスメントを訴えるも会社は認めず、横浜支社は「**熱のこもった適正な指導**」であるなど、懲罰的日勤教育を全面的に支持しています。まさに、いまJR東日本はいつ福知山線脱線事故のような事故が起きてもおかしくない状況なのです。

社員・お客さまの命と鉄道の安全を守るためにJR東労組に結集しよう！